

『ソーラープレーン現状報告 8』

破損した機体を積んで帰途に就くのは嫌なものです。しかし2ヶ月後には羽村、福生、青梅の3市でのイベントが控えていて、形だけは再現しなければなりません。

「いいか、あくまでカタチだけ復元する計画で進めるからね。もう一度飛ばそうなんて安易に考えるんじゃないぞ。」

と、ハンドルを握りながら繰り返し諭します。皆「はい」と応えるものの、何か嫌な予感は付いて回り、横を見れば浅野君のお父さんがビッグバイクで手を振りながら駆け抜けていきます。(そう、なんか皆“落胆力”が足りない…) そう感じたのです。



青梅に着いたのは昼過ぎ。天気も怪しく、急いで機体を工場に入れて一息吐きます。福島遠征の前も10日以上泊まり込んで作業したわけですから、さすがに皆疲労困憊。帰宅して自分の布団で休みたいはずです。(先の事は先の事、とにかく自分もゆっくり寝られる)と安堵した矢先の事、ひとりが

「しばらく工場泊まってもいいですか？」

(ハア???) ちょっと待ってくれ、これまで何日泊まり込んで作業したと思ってるんだ? これ以上続けたらオジサンは死んでしまう。悪い予感的中しました。

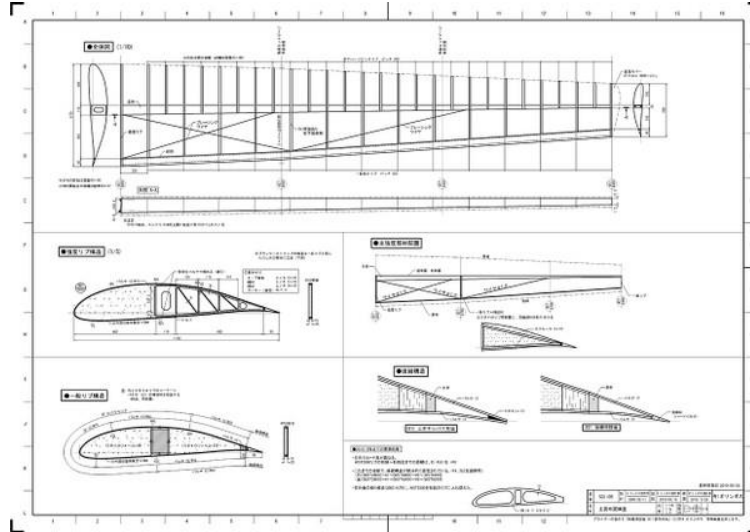
結局、主構造は機首を除いてほぼ無傷。一見派手に見えた翼の破壊は、ほとんどが翼の後縁側です。その後縁構造は、製作してから既に10年。あまりに出来が悪く、いつかは作り替えようと思いつけて先送りされていた所です。主構造が無事なら、確かに大型工作はありません。やはり、というか当然ながらメ

ンバーはそれを見抜いています。とはいえ2次構造の補修作業量も目がくらむほど膨大ですから、おいそれとは踏み出せません。しかし彼等は、壊れた翌日から直すというのです。しかもニコニコ笑いながら。



こうなると、もうオジサン達も道連れです。現メンバーでは荷が重い機首や足回りを優先的に直す計画を立てます。主翼は、とにかく後縁を新作せねば、リブが立ちません。しかもこれはもう補修作業なんかではなく、完全に改良作業です。はたしてイベントに間に合うのかコレ？2カ月で飛ばすのかコレ？不安を乗り越えて、神経が混線しヘンな快感すら湧いてきます。

翌日、落胆するメンバーの様子を取材に来たNHKのディレクターY氏も「ええ！あれから続けて修理始めたの?!」と驚く始末。僕もその気は無かったのですから当然です。佐渡から駆け付けたパイロット横山君も帰還日程ギリギリまで頑張ります。それでも意外なほど作業が順調に進んだのは、理由があります。多くの補修作業では、徐々に手探りで分解しつつ、残存構造を採寸し、新しい部品を繋いでいきます。これはストレスの大きい作業です。しかしSP-1の構造は、オリンポス山崎技師の手で完全に図面化しており、現物を一切分解せずに工法検討が出来る状況にあるのです。この図面が無ければ2カ月でのSP-1再生は不可能でした。



さて、実はこの2ヶ月間の記憶は白い霧の中です。辛い日程の中、有力なメンバーを泣く泣く2名もアメリカ出張に出した事、三沢から救世主、篠塚さんが現れてバリバリ作業を手伝って下さった事など、薄っすらとした記憶があるのみです。

気が付くと SP-1 は再び空中を私の方に滑ってきます。コクピットからは佐渡に帰ったはずの横山が「ラクーに浮きますよ。滑空も良く伸びるし」と笑っています。なんだかよく分からない内に SP-1 は再び空に浮かんでいました。しかも明らかに性能は今までで一番良くなっています。「こんな事って有るんだなあ…」と、猛暑の多摩川河川敷でボーっとしている自分がいた事は覚えています。

今回の SP-1 超速復活は、ベテランの知識技術と若者の意欲と体力の融合が可能にしたものです。しかし気を付けないとオーバーペースで年寄りには倒れてしまうので注意が要りますが。さあ、ここからまたソーラーフライトへの挑戦が再開します。いくつか更に改良を加え、その効果を今秋中に確認し、来春のソーラーフライトに備える計画です。スカイスポーツシンポジウムでまた中間発表させていただきますので、どうかお楽しみに！



四戸 哲
2014/9/5